

# 月刊「整形・災害外科」2014年4月号

(金原出版)



特集：膝前十字靭帯損傷治療

- 最近のトピックス

〔企画：石橋恭之（弘前大学 整形外科）〕

## ■ 特 集

膝前十字靭帯の局所解剖とバイオメカニクス

(北海道大学大学院医学研究科) 近藤 英司

前十字靭帯損傷の受傷メカニズム

(東京医科歯科大学大学院) 古賀 英之

前十字靭帯損傷のリスクファクターと受傷予防

(金沢大学大学院整形外科学) 中瀬 順介

前十字靭帯再建術の再建材料とその選択

(弘前大学大学院整形外科学) 津田 英一

膝屈筋腱を用いた前十字靭帯再建術

(山形大学医学部整形外科) 鈴木 朱美

膝蓋腱による前十字靭帯再建術

(大阪大学大学院医学系研究科) 前 達雄

レムナント温存前十字靭帯再建術の方法と術後成績

(広島大学大学院整形外科) 中前 敦雄

前十字靭帯再建術の術後骨孔位置評価と治療成績

(帯広協会病院整形外科) 大坪 英則

前十字靭帯再建術の評価法

(神戸海星病院整形外科) 星野 祐一

前十字靭帯再建術後の再受傷とその予防

(大阪大学大学院医学系研究科) 米谷 泰一



特集

膝前十字靭帯損傷治療  
—最近のトピックス

## 解剖学的二束 ACL 再建術の大腿骨孔位置

大坪英則<sup>\*1)</sup> 鈴木智之<sup>\*2)</sup> 鈴木大輔<sup>\*2)</sup>  
黒田未来<sup>\*2)</sup> 山下敏彦<sup>\*2)</sup> 史野根生<sup>\*3)</sup>

---

要旨：解剖学的二束 ACL 再建術においては，前内側（AM）線維，後外側（PL）線維それぞれの解剖学的付着部に正確に骨孔を作製することが重要である。われわれは，resident's ridge を確認して付着部を正確に同定する“ridge method”により骨孔作製位置を決定し，outside-in 法にて大腿骨孔を作製している。本術式により作製した骨孔位置を晒し骨から計測した正常 ACL 付着部位置と比較した。新鮮凍結標本 10 膝を用いて晒し骨を作製し，正常 ACL 各線維束付着部中心を同定した。また，解剖学的二束 ACL 再建術を施行した 30 膝を対象とし，術後 3D-CT で骨孔撮影を行った。大腿骨付着部中心および骨孔中心は，いずれも quadrant 法を用いて shallow-deep と high-low でそれぞれパーセント表示した。その結果，大腿骨孔は，すべての骨孔が resident's ridge の後方に位置しており，また，正常 ACL 各線維束付着部中心位置と近似していたことから，本術式は正確な解剖学的骨孔作製方法として推奨されうると考えられた。

---